



南国 マレーシアより



クアラルンプール日本人学校 水寄 智也

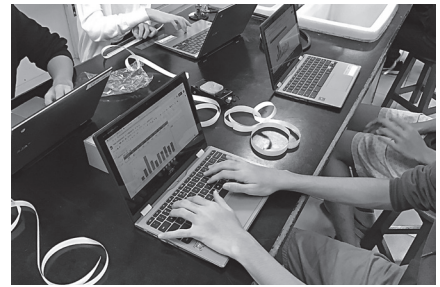
マレーシアはマレー半島の西マレーシア、ボルネオ島の北部を含む東マレーシアから成り立っており国土の約60%が熱帯雨林で覆われています。人口は約3,205万人で、そのうち66%がマレー系、中国系が26%、インド系などが8%という構成の多民族国家です。国教はイスラム教でマレー系を中心に広く信仰されていますが、中国系は仏教、インド系はヒンドゥー教徒が多く、お互いの文化を尊重し合いながら生活しています。マレーシアの街中ではとにかく小さな子どもが多く、温かい目で見守ってくれたり、声をかけてくれたり、お菓子をくれたり・・・子ども好きな方がとても多いです。気候も心もあたたかいマレーシアの方々と生活しています。



12月の水泳大会



イスラム教のモスク



ICTを活用した授業

クアラルンプール日本人学校は、幼・小・中併設、全校生徒800人の大規模校です。学校教育目標「たくましいからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」を達成するため、様々な教育活動に取り組んでいます。特筆すべきはICT教育の素晴らしさです。私が赴任した当初はwifi設備があるだけの学校でした。ICT教育を推進していこうという方針のもと、学校運営理事会や保護者の御協力もあり、2年間でiPad200台、Chromebookが60台整備されG-suiteを核とした授業を展開しています。とてつもないスピード感で進んでいくフットワークの軽さに驚くばかりです。ただ使うことが目的にならないように、子どもの力を伸ばすための活用ができるよう日々教員は研修を重ねています。

そんな中、穏やかなマレーシアにも新型コロナウイルスの影響が一気に押し寄せました。3月15日に感染者が激増したことで、政府は3月18日からロックダウンを決定、外出禁止令により食品の買い物以外の外出は不可。マレーシア政府の決断の早さを実感しました。7月15日ようやく学校を再開することができました。

その間、今までの職員研修の成果、児童生徒のスキル向上、家庭の理解の3つが合わさり、臨時休校期間に絶えずオンラインでの学習提供を行うことができました。ピンチをチャンスに変える貴重な経験をすることができました。本年度は「ICT活用を核としたNew Normal Schoolのかたち」という研究主題を設定し、新たな学校のかたちを求めていくことに力を入れています。

私の研修を応援してくださった方への感謝の気持ちを持ち、学んだすべてを長野県へ還元できるように、あと少し頑張ります。



日本人会盆踊り（ローカル校とともに）